

VI- I 死亡の推移 - がん

1

がん死亡（総数）の推移

岩手県のがんによる死亡数は、他の疾患を大きく引き離して死因の第1位となっている。

最新年では4,521人ががんで死亡しているが、内訳としては、男性が2,573人、女性が1,948人で、男性が600人余り多い。

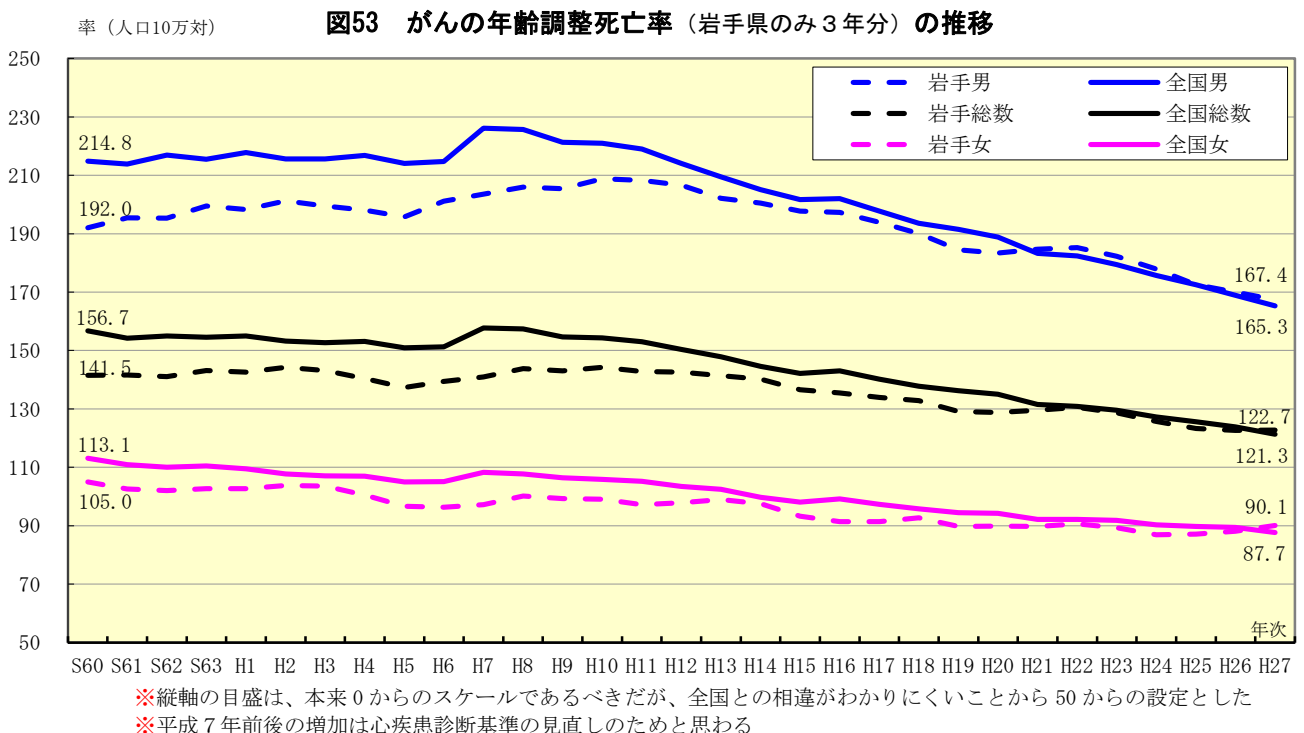
岩手県 がん死亡数最新値（H28年）4,521人
 内訳 男性：2,573人
 女性：1,948人

次に、がんの年齢調整死亡率についてであるが、P43にも記載のとおり、疾病分類が詳細になるほど単年では年次変動が大きいことから、がん以降の本県の年齢調整死亡率は、当該年及びその前後の3年分のデータを用いて（以降「3年分」という。）、全国は単年の算出とする。

昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県のがんの年齢調整死亡率の推移を示す（図53）。

がんは、全国、岩手県及び男女別全てで、平成10年前後から少しずつ**減少**している。

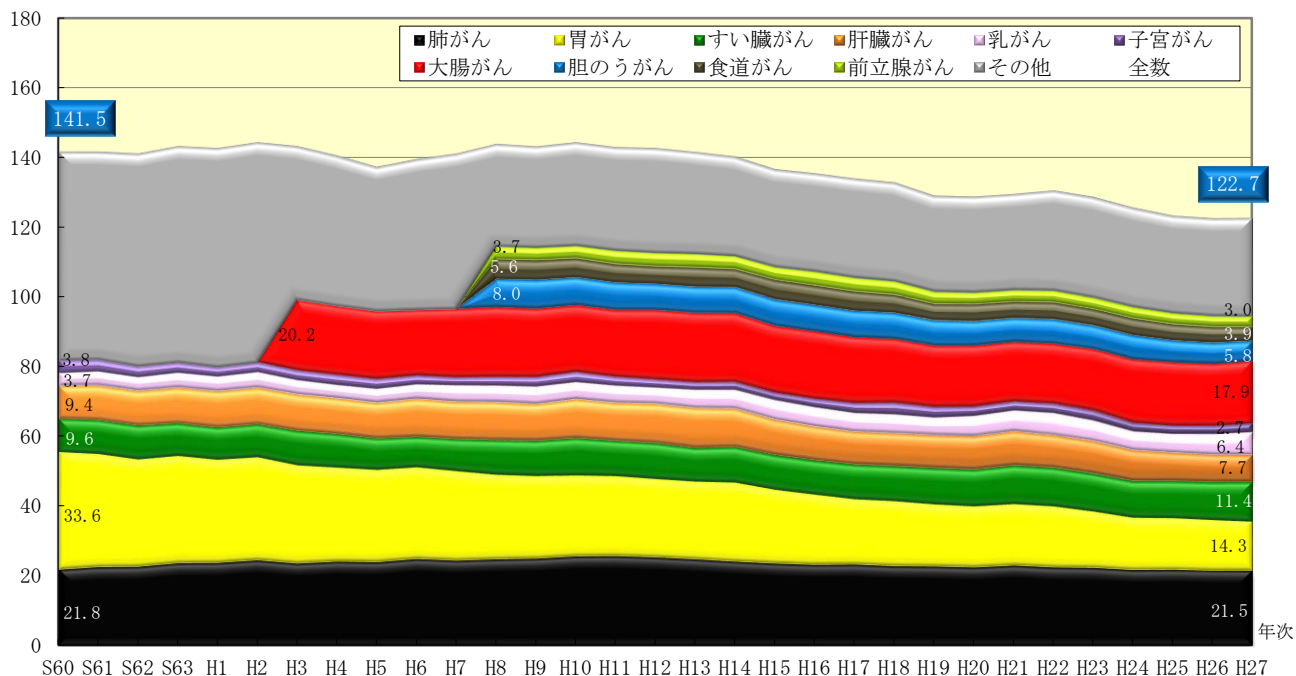
男女別では、男性が女性のほぼ倍近い値となっており、全国との比較では、男女ともに、平成20年頃までは全国を下回っていたが、近年は、全国と同程度で推移している。



岩手県のがんの主要部位別年齢調整死亡率の昭和60年（3年分）から最新年（3年分）までの推移を示す（図54）。

率（人口10万対）

図54 主要部位別のがん年齢調整死亡率（3年分）の推移（総数）



※大腸がんは平成2年からのデータのため3年分の平均にすると平成3年からの表記となる

※胆のうがん、食道がん、前立腺がんは平成7年からのデータのため3年分の平均にすると平成8年からの表記となる

最新年の主要部位別がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順5位までの全国と岩手県との比較を示す（表22）。

1位は肺がん、2位は大腸がん、3位は胃がん、4位は膵臓がん、5位が肝臓がん全国と同じ順位となっているが、肺がんは1割程度、肝臓がんは2割程度低く、大腸がん及び膵臓がんは1割程度高い状況となっている。

表22 平成27年（岩手県のみ3年分）主要部位別がん年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	4位	5位
全国	肺 (23.5)	大腸 (16.1)	胃 (14.8)	膵臓 (10.4)	肝臓 (9.1)
岩手	肺 (21.5)	大腸 (17.9)	胃 (14.3)	膵臓 (11.4)	肝臓 (7.7)
全国との差	-2.0	1.8	-0.5	1.0	-1.4

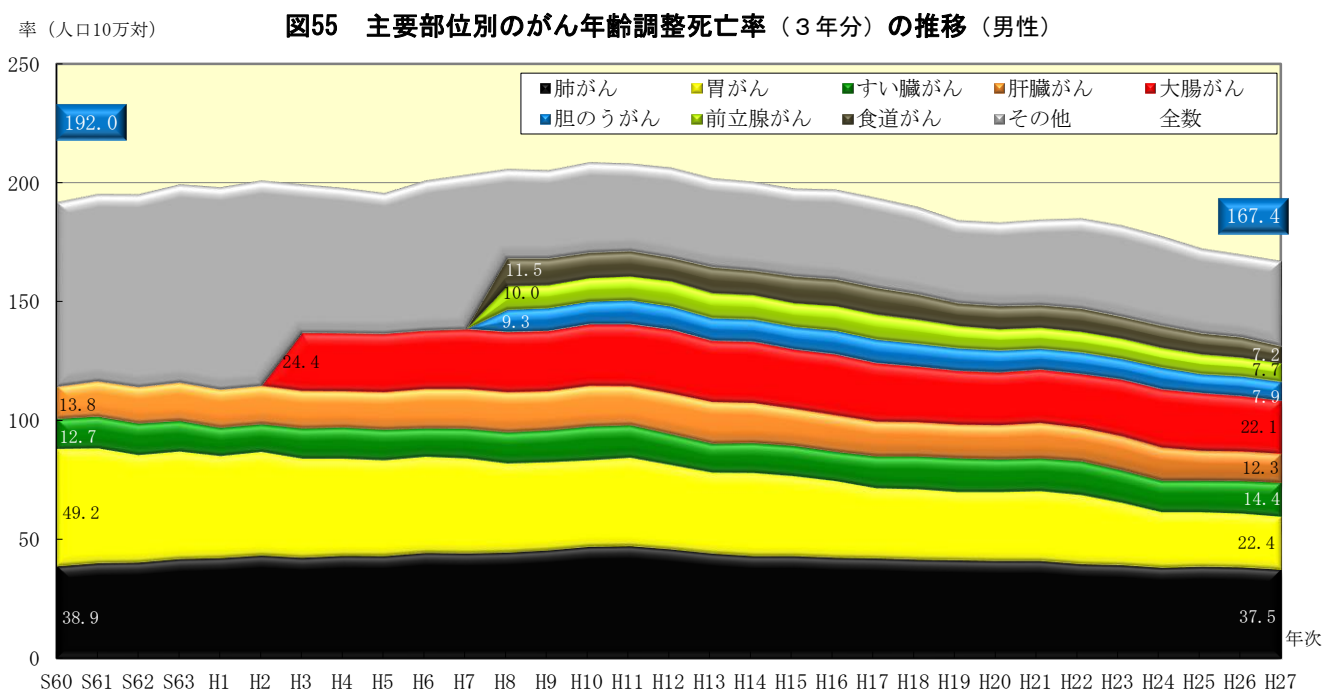
次に、がんの増減を見るため、岩手県の主要部位別がんの平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、「大きく増加（120%以上）」、「若干増加（110%以上 120%未満）」、「若干減少（80%以上 90%未満）」、「大きく減少（80%未満）」の4区分別に示す（表23）。なお、4区分に該当していない部位はほぼ横ばいと捉えることができる。

この10年余りで大きく減少しているのが、前立腺がん、子宮がん、胆のうがん、胃がん及び食道がんとなっている。

表23 総数主要部位別がん－平成18年年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する「がん」の部位名（割合）
大きく増加（120%以上）	—
若干増加（110%以上 120%未満）	乳がん（119.3%）、膵臓がん（114.1%）
若干減少（80%以上 90%未満）	肝臓がん（81.7%）
大きく減少（80%未満）	前立腺がん（78.6%）、子宮がん（77.4%）、胆のうがん（77.4%）、胃がん（76.1%）、食道がん（75.8%）

同じく、岩手県**男性**のがんの主要部位別年齢調整死亡率について、昭和60年（3年分）から最新年である平成27年（3年分）までの推移を示す（図55）。



※大腸がんは平成2年からのデータのため3年分の平均にすると平成3年からの表記となる

※胆のうがん、食道がん、前立腺がんは平成7年からのデータのため3年分の平均にすると平成8年からの表記となる

最新年の**男性**の主要部位別がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順5位までの全国と岩手県との比較を示す（表24）。

1位の肺がん、2位の胃がん、3位の大腸がんは全国と同じ順位となっているが、4位の膵臓がんと5位の肝臓がんは全国と順位が逆転している。

膵臓がんが全国より1割程度高く、肝臓がんが1割程度低い状況となっている。

表24 男性の平成27年（岩手県のみ3年分の平均）主要部位別がん年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	4位	5位
全国	肺 (39.2)	胃 (22.9)	大腸 (21.0)	肝臓 (14.5)	膵臓 (12.8)
岩手	肺 (37.5)	胃 (22.4)	大腸 (22.1)	膵臓 (14.4)	肝臓 (12.3)
全国との差	-1.7	-0.5	1.1	1.6	-2.2

がんの増減を見るため、岩手県**男性**の主要部位別がんの平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4区分別に示す（表25）。

この10年余りで大きく減少しているのが、前立腺がん、胃がん及び食道がんとなっている。

表25 男性の主要部位別がんー平成18年年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区分	該当する「がん」の部位名（割合）
大きく増加（120%以上）	—
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	肺がん（89.9%）、肝臓がん（85.2%）、胆のうがん（82.4%）
大きく減少（80%未満）	前立腺がん（75.9%）、胃がん（75.7%）、食道がん（68.0%）

同じく、岩手県**女性**のがんの主要部位別年齢調整死亡率について、昭和60年（3年分）から最新年である平成27年（3年分）までの推移を示す（図56）。

さらに、最新年の**女性**の主要部位別がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順5位までの全国と岩手県との比較を示す（表26）。

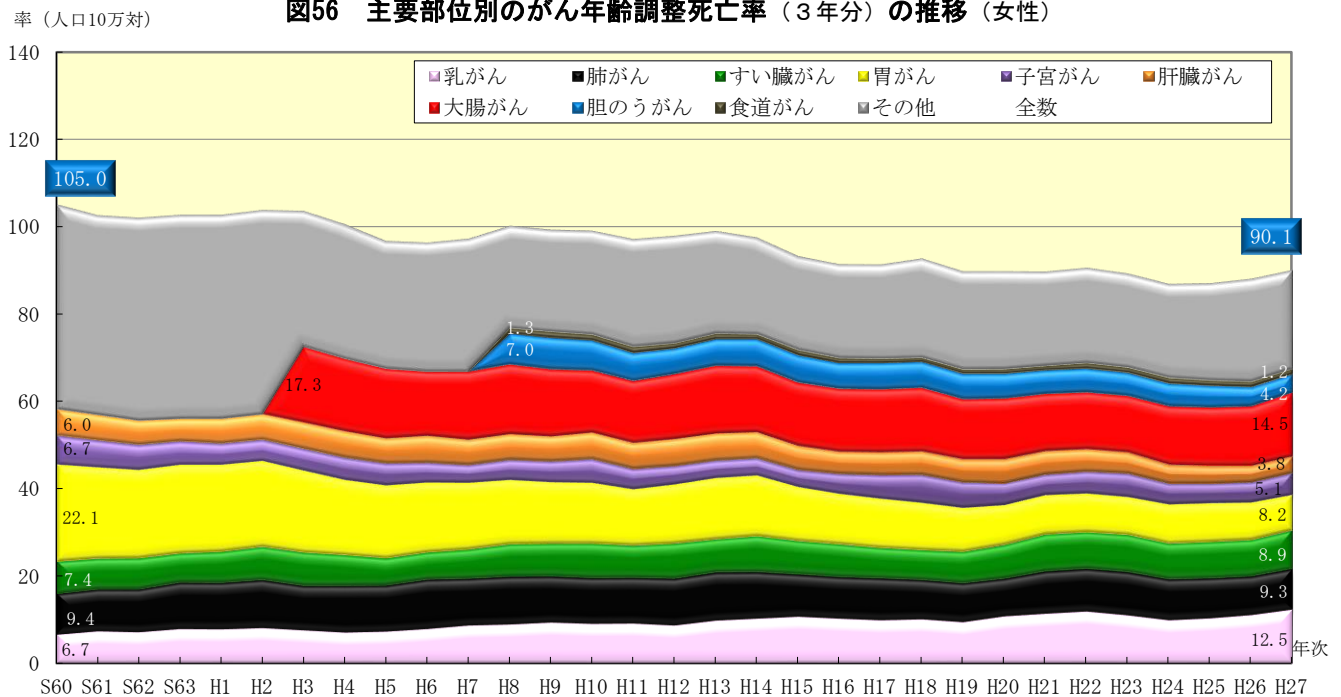
1位が大腸がん、2位が乳がん、3位が肺がん、4位が膵臓がん、5位が胃がんで、全国と同じ順位となっているが、大腸がんが全国より2割程度高く、肺がんが1割程度低い状況となっている。

男性とは、部位別がんの順位や率ともに大きく異なることがわかる。

がんの増減を見るため、岩手県**女性**の主要部位別がんの平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4区分別に示す（表27）。

この10年余りで大きく増加しているのが、食道がん、膵臓がん、乳がんとなっている。一方で、大きく減少しているのが、子宮がん、胃がん、肝臓がん及び胆のうがんとなっている。

図56 主要部位別のがん年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）



※大腸がんは平成2年からのデータのため3年分の平均にすると平成3年からの表記となる
 ※胆のうがん、食道がん、前立腺がんは平成7年からのデータのため3年分の平均にすると平成8年からの表記となる

表26 女性の平成27年（岩手県のみ3年分の平均）主要部位別がん年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	4位	5位
全国	大腸 (12.1)	乳 (12.0)	肺 (11.1)	膵臓 (8.4)	胃 (8.3)
岩手	大腸 (14.5)	乳 (12.5)	肺 (9.3)	膵臓 (8.9)	胃 (8.2)
全国との差	2.4	0.5	-1.8	0.5	-0.1

表27 女性の主要部位別がんー平成18年年齢調整死亡率を100とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区分	該当する「がん」の部位名（割合）
大きく増加（120%以上）	食道がん（133.3%）、膵臓がん（128.4%）、乳がん（122.0%）
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	—
大きく減少（80%未満）	子宮がん（78.3%）、胃がん（75.8%）、肝臓がん（71.1%）、胆のうがん（70.6%）

2 がん死亡（65歳未満）の推移

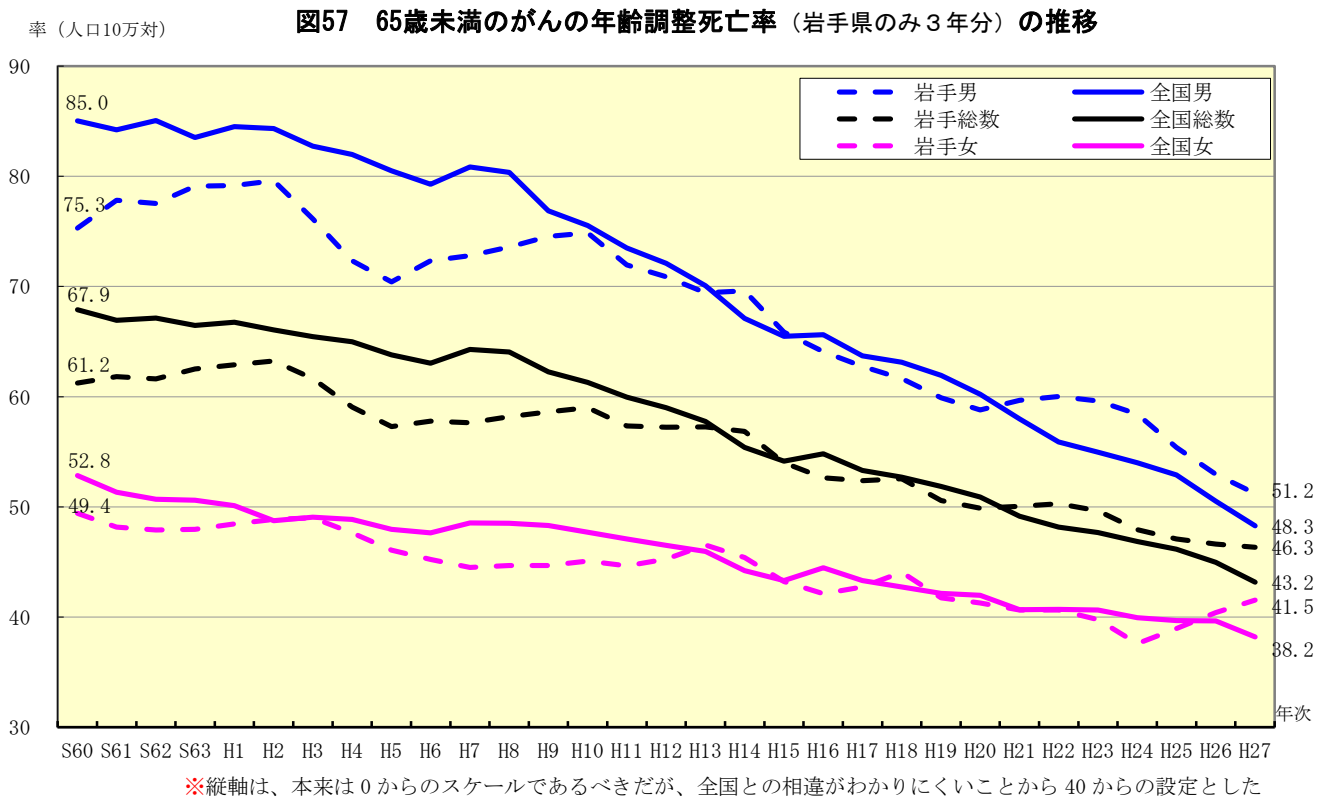
早世予防の観点から、昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県の65歳未満のがんの年齢調整死亡率の推移を示す（図57）。

65歳未満のがんは、全国、岩手県及び男女別全てで大きく**減少**している。

男女別では、最新値で、男性が女性の1.2倍程度となっている。

全国との比較では、男性が、平成10年頃までは全国を下回っていたが、その後、平成20年頃までは全国と同程度で推移し、それ以降は全国を上回る状況となっている。

一方、女性は、平成12年頃までは全国を下回る年次が多かったものの、それ以降は全国と同程度で推移している。



昭和60年（3年分）から最新年（3年分）までの岩手県の65歳未満のがんの主要部位別年齢調整死亡率の推移を示す（図58）。

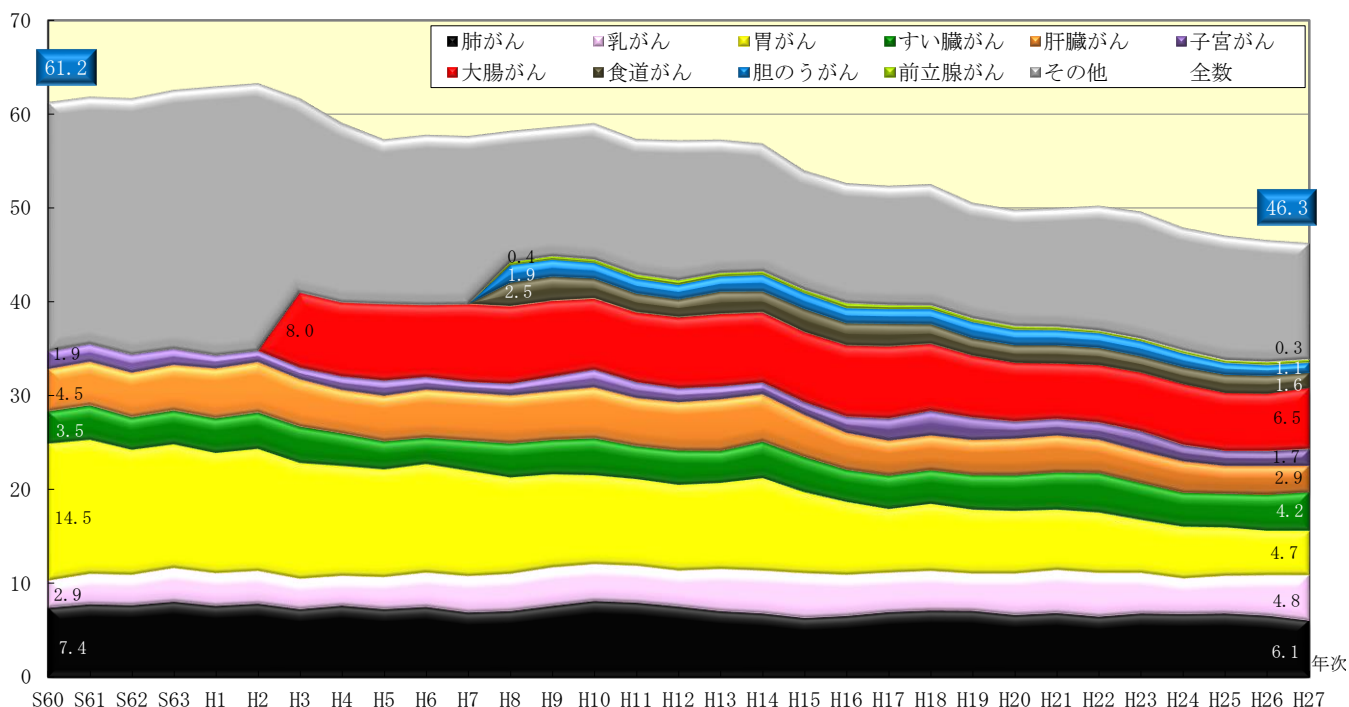
さらに、最新年の65歳未満の主要部位別がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順5位までの全国と岩手県との比較を示す（表28）。

1位は大腸がん、2位は肺がん、3位は乳がん、4位は胃がん、5位が膵臓がんとなり全国とは部位別の順位が大きく異なっている。

乳がんが1割程度、膵臓がんが2割程度、全国より高い状況となっている。

率（人口10万対）

図58 65代未満の主要部位別がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（総数）



※岩手県大腸がんは平成2年からのデータのため3年化すると平成3年からの表記となる

※岩手県胆のうがん、食道がん、前立腺がんは平成7年からのデータのため3年化すると平成8年からの表記となる

表28 平成27年（岩手のみ3年分）65歳未満主要部位別がん年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	4位	5位
全国	肺 (6.5)	大腸 (6.0)	胃 (4.7)	乳 (4.4)	膵臓 (3.4)
岩手	大腸 (6.5)	肺 (6.1)	乳 (4.8)	胃 (4.7)	膵臓 (4.2)
全国との差	0.5	-0.4	0.5	0	0.8

次に、岩手県の65歳未満の主要部位別の平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、「大きく増加（120%以上）」、「若干増加（110%以上120%未満）」、「若干減少（80%以上90%未満）」、「大きく減少（80%未満）」の4区分別に示す（表29）。なお、4区分に該当していない部位はほぼ横ばいと捉えることができる。

この10年余りで大きく減少しているのが、肝臓がん、食道がん、胆のうがん、前立腺がん、子宮がん及び胃がんとなっている。

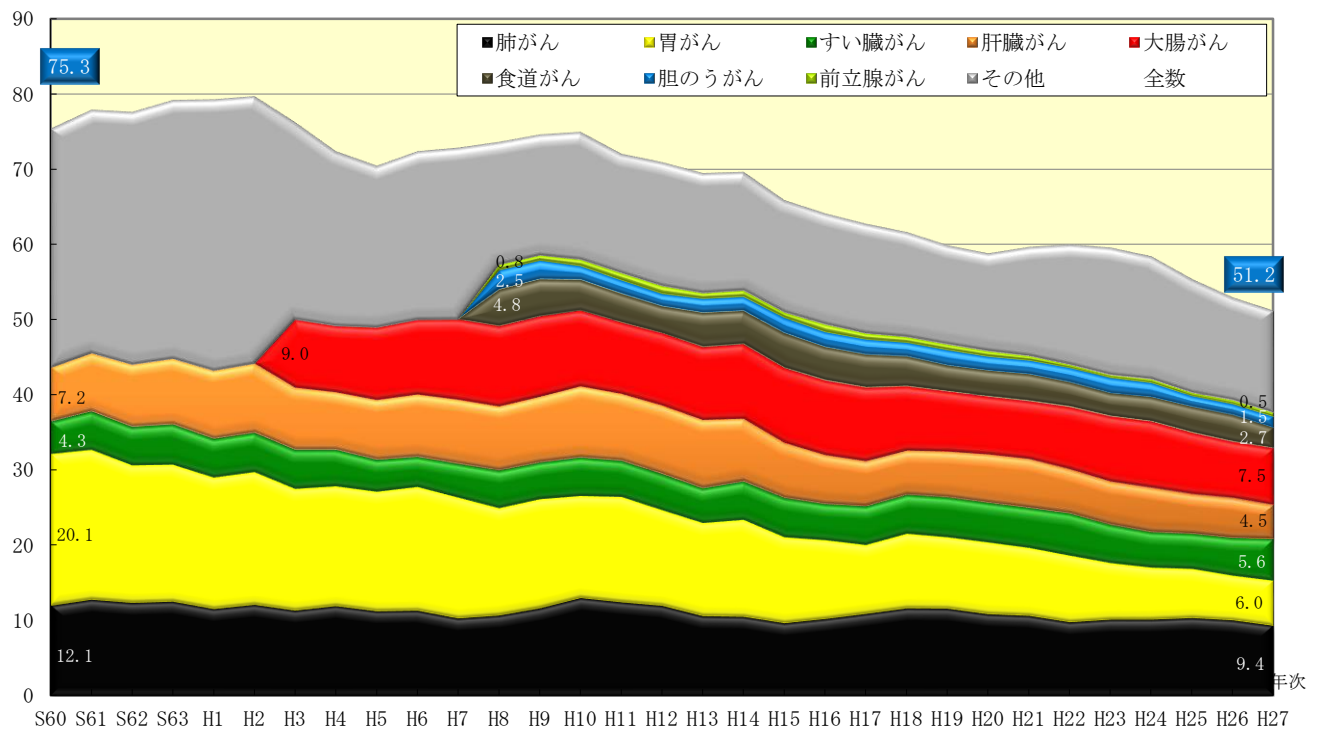
表 29 65歳未満主要部位別がん—平成18年年齢調整死亡率を100とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する「がん」の部位名（割合）
大きく増加（120%以上）	—
若干増加（110%以上 120%未満）	膵臓がん（114.4%）、乳がん（114.1%）
若干減少（80%以上 90%未満）	肺がん（85.0%）
大きく減少（80%未満）	肝臓がん（77.7%）、食道がん（75.7%）、胆のうがん（71.0%）、前立腺がん（68.5%）、子宮がん（66.7%）、胃がん（66.3%）

同じく、昭和60年（3年分）から最新年（3年分）までの岩手県の65歳未満**男性**のがんの主要部位別年齢調整死亡率の推移を示す（図59）。

率（人口10万対）

図59 65代未満の主要部位別がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）



※岩手県大腸がんは平成2年からのデータのため3年化すると平成3年からの表記となる
 ※岩手県胆のうがん、食道がん、前立腺がんは平成7年からのデータのため3年化すると平成8年からの表記となる

最新年の65歳未満の**男性**について、主要部位別がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順5位までの全国と岩手県との比較を示す（表30）。

1位は肺がん、2位は大腸がん、3位は胃がん、4位は膵臓がん、5位が肝臓がんで、全国と同じ順位となっているが、膵臓がんは全国より3割程度高い状況となっている。

表30 平成27年（岩手のみ3年分）65歳未満男性の主要部位別がん年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	4位	5位
全国	肺 (9.7)	大腸 (7.3)	胃 (6.3)	膵臓 (4.3)	肝臓 (4.2)
岩手	肺 (9.4)	大腸 (7.5)	胃 (6.0)	膵臓 (5.6)	肝臓 (4.5)
全国との差	-0.3	0.2	-0.2	1.2	0.3

岩手県の65歳未満男性の主要部位別の平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4区分別に示す（表31）。

この10年余りで大きく減少しているのが、肝臓がん、食道がん、前立腺がん及び胃がんとなっている。

表31 65歳未満男性の主要部位別がん－平成18年年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区分	該当する「がん」の部位名（割合）
大きく増加（120%以上）	—
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	大腸がん（88.2%）、胆のうがん（81.4%）、肺がん（80.2%）
大きく減少（80%未満）	肝臓がん（77.3%）、食道がん（68.3%）、前立腺がん（66.6%）、胃がん（60.6%）

同じく、昭和60年（3年分）から最新年である平成27年（3年分）までの岩手県の65歳未満女性のがんの主要部位別年齢調整死亡率の推移を示す（図60）。

さらに、最新年の65歳未満女性について、主要部位別がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順5位までの全国と岩手県との比較を示す（表32）。

1位の乳がん、2位の大腸がん、3位の子宮がんまでは全国と同じ順位となっているが、4位の胃がんと5位の膵臓がんは全国の順位とは異なっている。

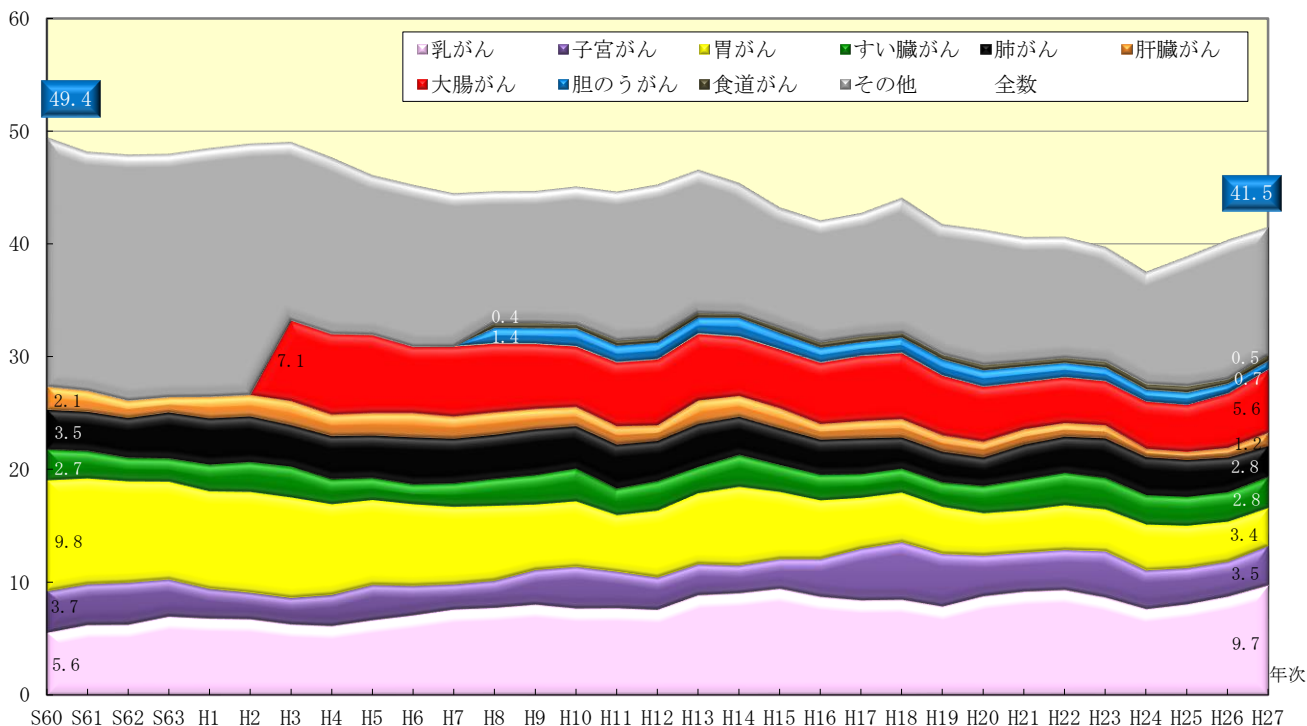
乳がんは全国より1割程度、大腸がんは2割程度高く、子宮がんは1割程度低い状況となっている。

65歳未満でも、男性とは、部位別がんの順位や率ともに大きく異なることがわかる。

次に、岩手県の65歳未満女性の主要部位別の平成18年の年齢調整死亡率（3年分）を100%とした場合の平成27年の年齢調整死亡率（3年分）の割合を算出し、4区分別に示す（表33）。

この10年余りで大きく増加しているのが、食道がん及び膵臓がんとなっている。
一方、大きく減少しているのが、胃がん、肝臓がん、子宮がん及び胆のうがんとなっている。

率（人口10万対） **図60 65歳未満の主要部位別がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）**



※岩手県大腸がんは平成2年からのデータのため3年化すると平成3年からの表記となる
 ※岩手県胆のうがん、食道がん、前立腺がんは平成7年からのデータのため3年化すると平成8年からの表記となる

表32 平成27年（岩手のみ3年分）65歳未満女性の主要部位別がん年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	4位	5位
全国	乳 (8.7)	大腸 (4.7)	子宮 (4.1)	肺 (3.3)	胃 (3.2)
岩手	乳 (9.7)	大腸 (5.6)	子宮 (3.5)	胃 (3.4)	膵臓 (2.8)
全国との差	1.0	0.9	-0.6	0.2	-0.3

表33 65歳未満女性の主要部位別がんー平成18年年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区分	該当する「がん」の部位名（割合）
大きく増加（120%以上）	食道がん（127.4%）、膵臓がん（127.3%）
若干増加（110%以上 120%未満）	乳がん（115.4%）
若干減少（80%以上 90%未満）	—
大きく減少（80%未満）	胃がん（77.3%）、肝臓がん（74.5%）、子宮がん（68.1%）、胆のうがん（55.7%）

3

保健所別がん死亡等の推移

平成8年から最新年までの約20年の保健所別がんの死亡数を表34に示す。

年次により多少の増減はあるものの、全ての保健所管内でがんの死亡数は増加している。

表34 保健所別年次別全がん死亡数(単位：人)

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	895	1,097	1,200	1,361	1,357	1,309	1,355	1,398	1,402	507	156.6
中部	549	643	701	687	696	730	701	693	742	193	135.2
奥州	340	419	463	492	452	507	491	536	507	167	149.1
一関	450	486	490	506	526	490	505	519	528	78	117.3
大船渡	218	238	243	272	267	294	252	267	299	81	137.2
釜石	199	213	216	214	190	189	199	214	202	3	101.5
宮古	276	284	321	329	346	332	312	344	378	102	137.0
久慈	147	186	199	192	184	226	245	197	225	78	153.1
二戸	168	199	176	220	223	229	238	236	238	70	141.7
岩手県	3,242	3,765	4,009	4,273	4,241	4,296	4,307	4,404	4,521	1,279	139.5

5年刻み

次に、平成8年から最新年までの約20年の保健所別年齢調整死亡率を表35に示す。

年次により多少の増減はあるものの、すべての保健所管内で年齢調整死亡率は僅かに減少又は横ばいとなっている。

表35 保健所別年次別全がん年齢調整死亡率(単年：人口10万対)

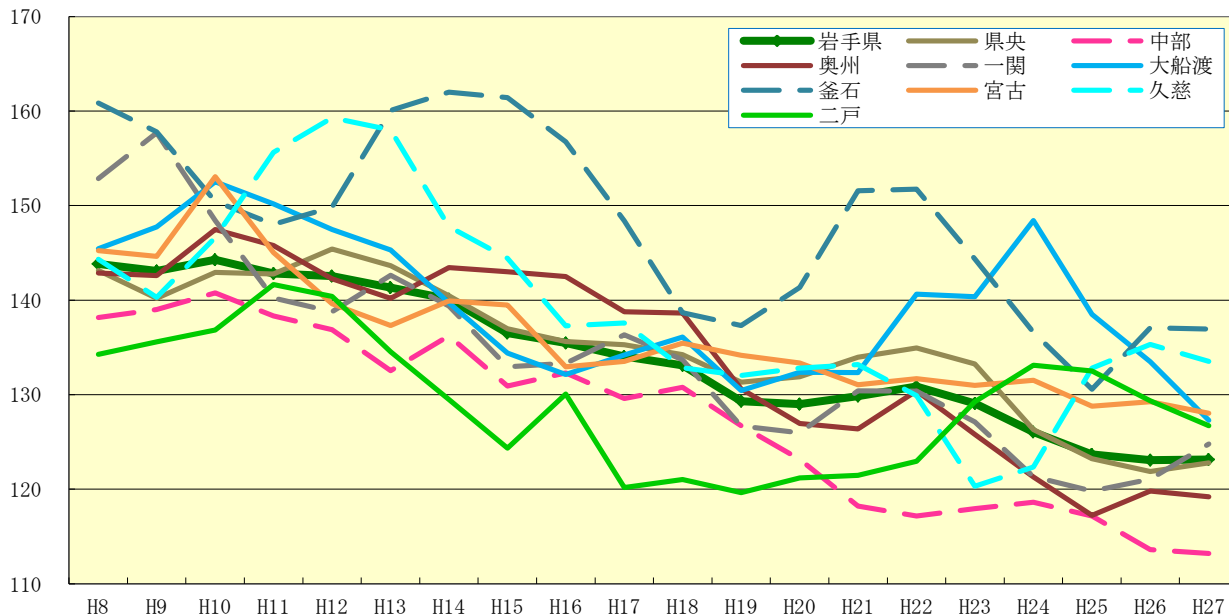
	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	140.8	146.0	131.8	132.9	127.9	118.3	123.7	123.7	120.6	-20.2	85.7
中部	135.4	141.6	130.6	116.0	121.4	118.3	111.6	111.0	117.5	-17.9	86.7
奥州	130.3	140.6	139.5	127.2	113.9	122.9	115.2	121.3	120.9	-9.4	92.8
一関	159.1	149.0	134.8	124.0	124.7	115.4	118.6	128.7	127.3	-31.8	80.0
大船渡	146.7	140.0	132.3	152.2	138.6	154.1	121.9	124.8	137.2	-9.4	93.6
釜石	157.5	155.8	140.1	150.2	127.8	132.2	132.2	147.4	132.3	-25.2	84.0
宮古	137.0	132.2	135.7	130.3	131.6	133.2	121.7	132.1	130.0	-7.1	94.8
久慈	137.6	153.0	136.3	121.9	108.7	136.1	153.9	115.3	132.2	-5.4	96.1
二戸	131.2	138.8	104.2	133.1	127.2	139.4	130.3	117.3	134.1	2.9	102.2
岩手県	141.3	143.5	131.5	129.4	124.9	123.9	122.2	123.0	124.3	-17.0	88.0

5年刻み

次に、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別のがん総数（図61）及び65歳未満の年齢調整死亡率（図62）の推移を示す。

率(人口10万対)

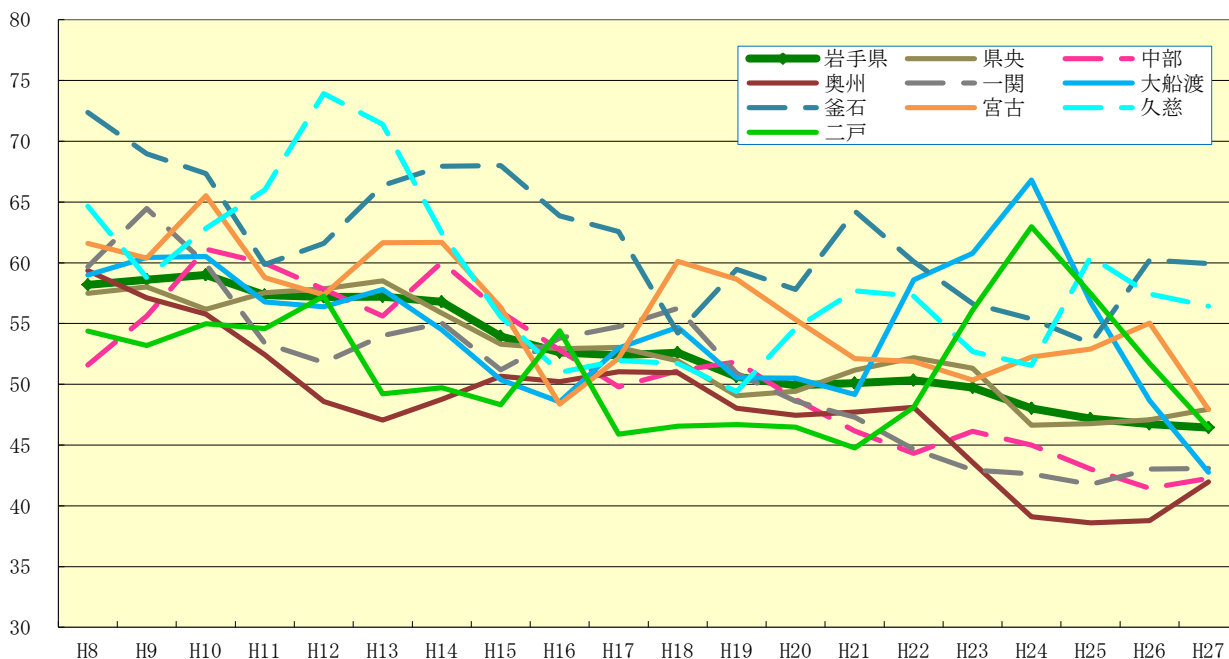
図61 保健所別のがんの年齢調整死亡率（3年分）の推移



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから110からの設定とした

率(人口10万対)

図62 保健所別の65歳未満がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移



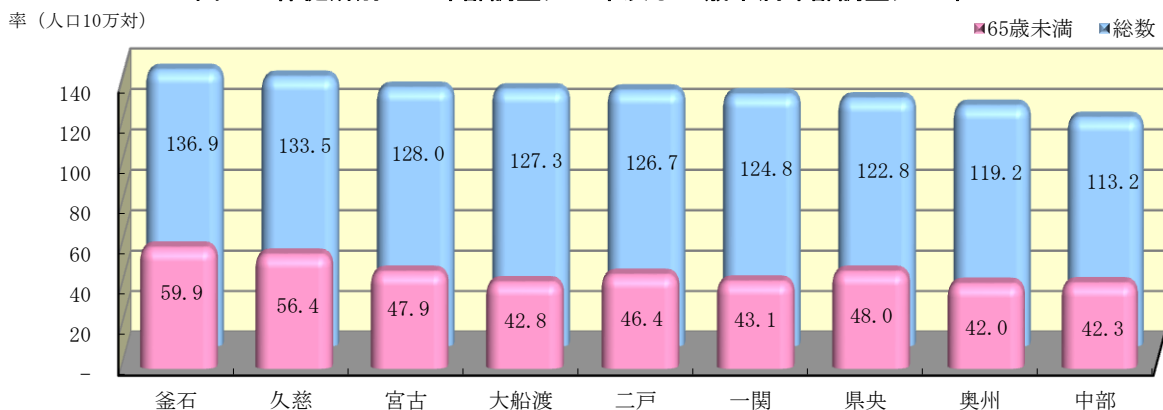
※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから30からの設定とした

さらに、最新年（3年分）のがん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図63）。

がん総数の年齢調整死亡率で最も高いのが釜石保健所管内であり、最も低い中部保健所管内とは23.7の差となっている。釜石保健所管内は65歳未満の年齢調整死亡率も最も高く、最も低い奥州保健所管内とは17.9の差となっている。

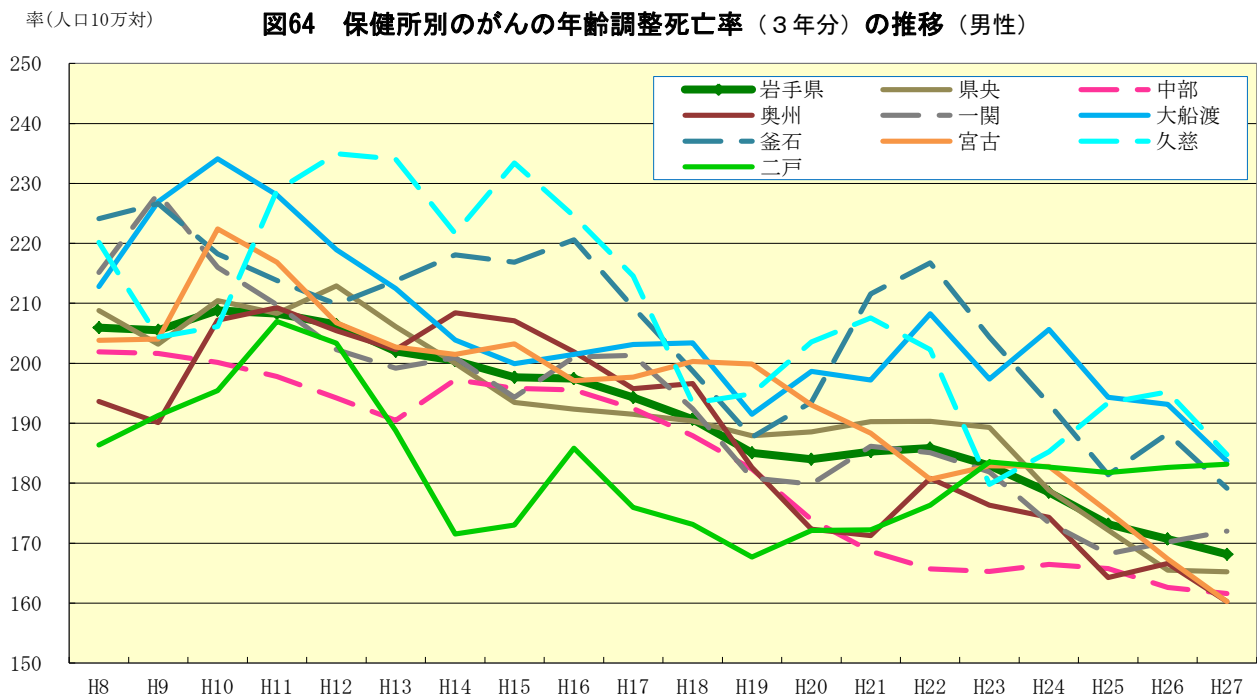
また、久慈保健所管内は、がん総数及び65歳未満のいずれにおいても、釜石保健所管内に次いで高い値となっている。

図63 保健所別がん年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（3年分）



次に、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**男性**のがん総数（図64）及び65歳未満（図65）の年齢調整死亡率の推移を示す。

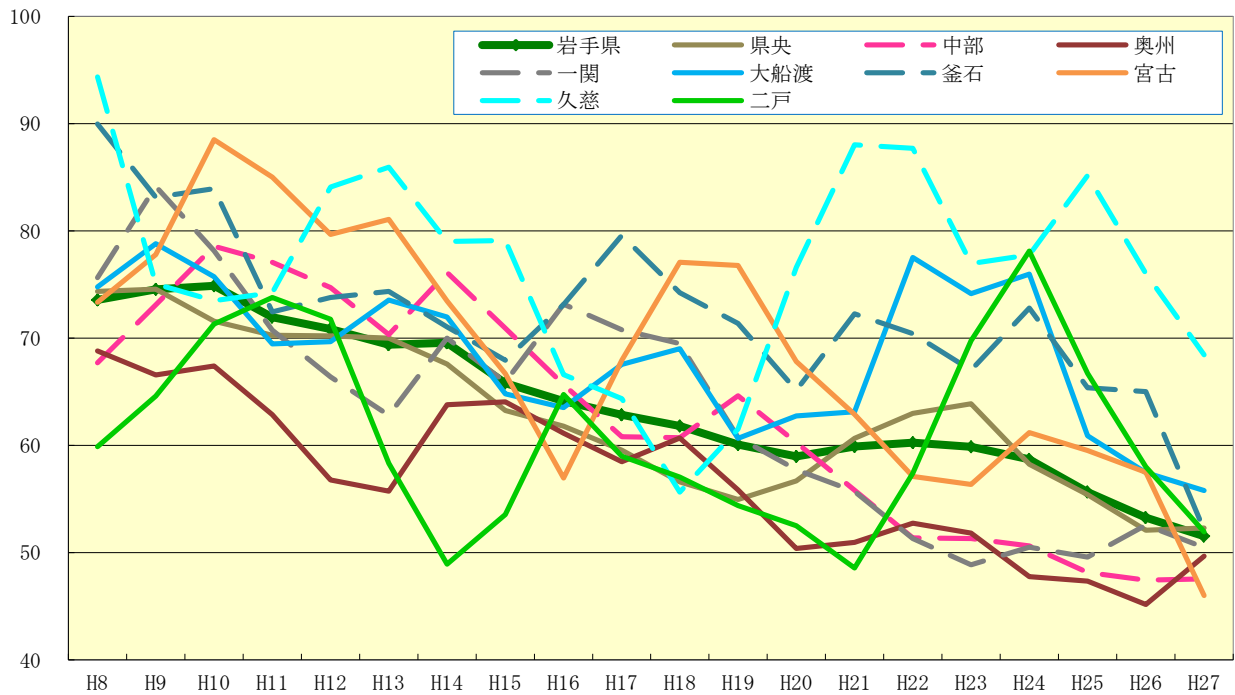
図64 保健所別のがんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから150からの設定とした

率(人口10万対)

図65 保健所別の65歳未満がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから40からの設定とした

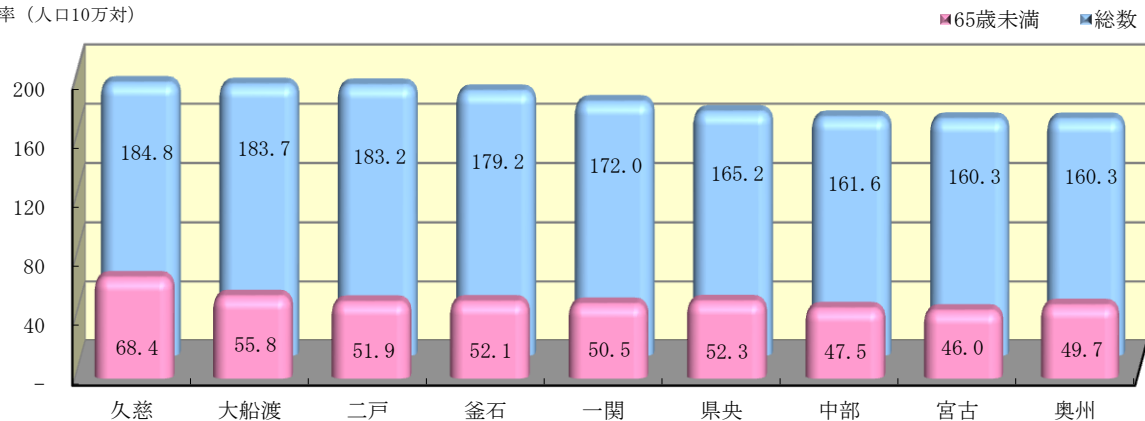
さらに、最新年（3年分）の**男性**のがん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図66）。

男性では、がん総数の年齢調整死亡率で最も高いのが久慈保健所管内であり、最も低い奥州保健所管内とは24.5の差となっている。

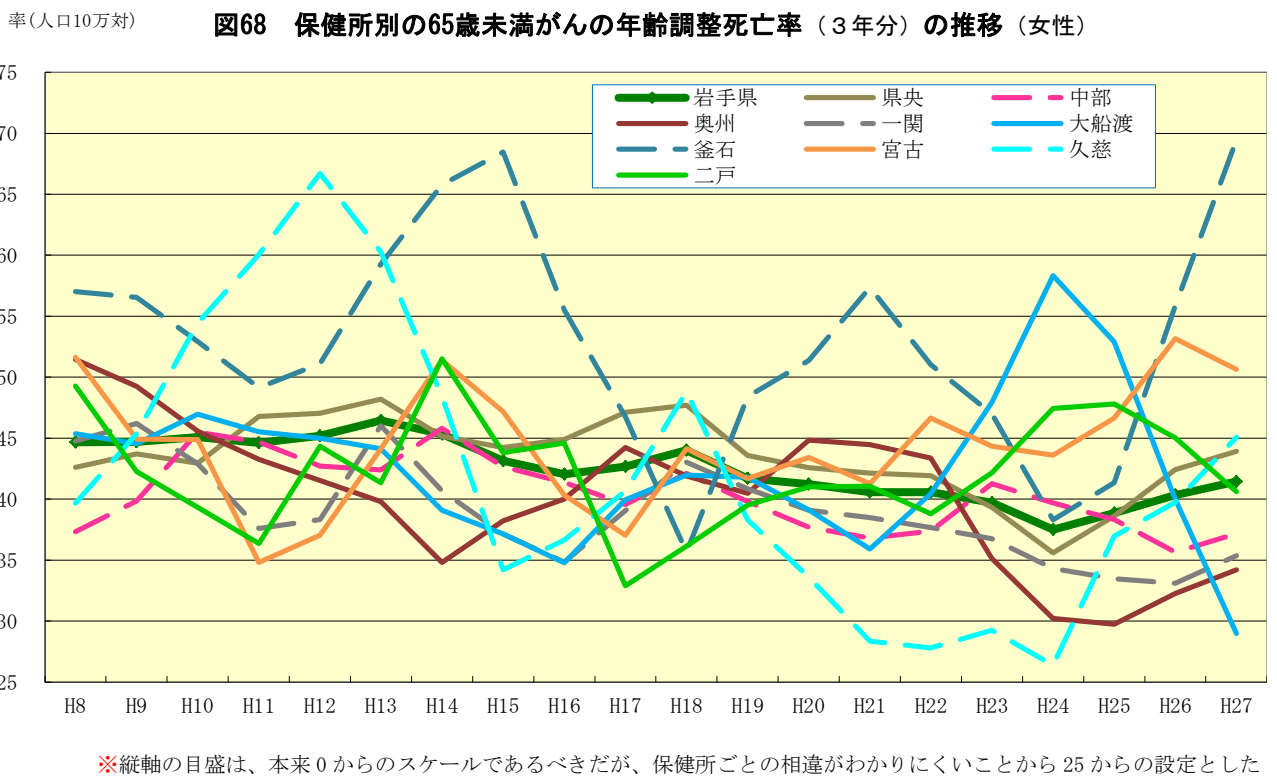
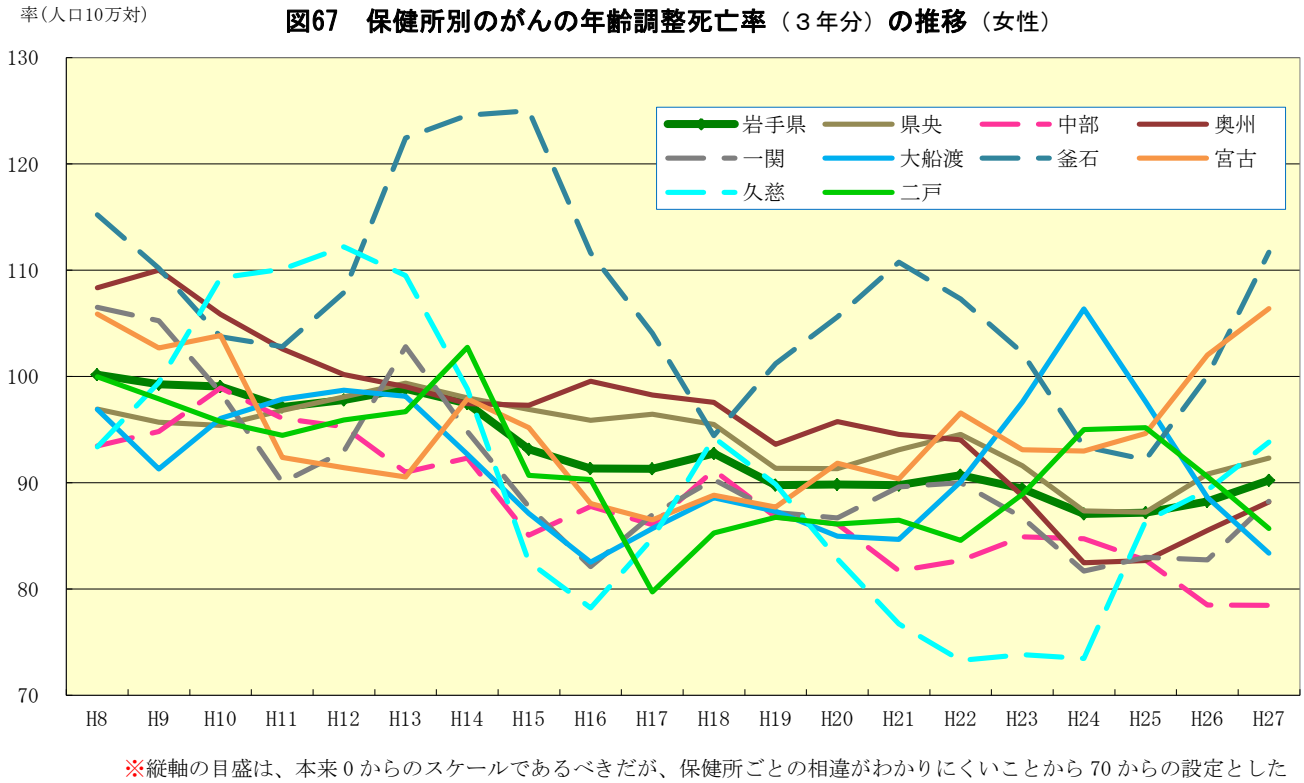
65歳未満でも久慈保健所管内が最も高く、最も低い宮古保健所管内とは22.4の差となっている。

図66 保健所別がん年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（男性-3年分）

率(人口10万対)



同じく、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**女性**のがん総数（図67）及び65歳未満（図68）の年齢調整死亡率の推移を示す。



さらに、最新年（3年分）の**女性**のがん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図69）。

女性では、がん総数の年齢調整死亡率で最も高いのが釜石保健所管内であり、最も低い中部保健所管内とは33.2の差となっている。

65歳未満でも釜石保健所管内は最も高く、最も低い大船渡保健所管内とは40.5の差となっている。

図69 保健所別がん年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（女性-3年分）

率（人口10万対）

